



## 平成24年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年5月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 メディネット

コード番号 2370 URL <http://www.medinet-inc.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 木村 佳司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長

(氏名) 原 大輔

TEL 045-478-0041

四半期報告書提出予定日 平成24年5月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年9月期第2四半期の連結業績(平成23年10月1日～平成24年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年9月期第2四半期	1,114	△22.7	△319	—	△311	—	△335	—
23年9月期第2四半期	1,442	△9.3	6	△97.5	△15	—	△101	—

(注) 包括利益 24年9月期第2四半期 △234百万円 (—%) 23年9月期第2四半期 △17百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年9月期第2四半期	△458.44	—
23年9月期第2四半期	△145.82	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年9月期第2四半期	7,657	—	5,251	—	68.6	—
23年9月期	8,024	—	5,486	—	68.4	—

(参考) 自己資本 24年9月期第2四半期 5,251百万円 23年9月期 5,486百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年9月期	—	0.00	—	—	—
24年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年9月期の連結業績予想(平成23年10月1日～平成24年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,650	△0.9	△400	—	△400	—	△410	—	△559.53

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年9月期2Q	732,755 株	23年9月期	732,755 株
② 期末自己株式数	24年9月期2Q	— 株	23年9月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年9月期2Q	732,755 株	23年9月期2Q	695,942 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項は、【添付資料】P.3「連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。  
・当社は、平成24年5月24日(木)に機関投資家及び証券アナリスト向けに決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。また、決算説明資料については、東京証券取引所ホームページ(東証上場会社情報サービス)にも掲載します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成23年10月1日から平成24年3月31日まで）において当社グループは、前連結会計年度から引き続き、主力サービスである免疫細胞療法総合支援サービスを本格的な成長軌道に乗せるべく、市場の顕在化及び拡大に努めております。医療チャネルの拡充に向けては、患者の治療選択プロセスにおいて実質的な決定力を有する医師・医療機関に対し、研究開発の進展とその成果を踏まえた訴求力の高い学術営業活動を展開するとともに、患者及び患者家族に向けては、各種メディアやWebサイト、セミナー活動等による情報提供に取り組んでおります。当第2四半期連結累計期間では、平成23年10月に、免疫細胞療法の診療を開始した九州大学先端医療イノベーションセンターに対して免疫細胞療法総合支援サービスの提供を本格的に開始いたしました。また、当社グループの細胞加工に係る技術、ノウハウを活かした新たな細胞医療支援事業として、金沢大学附属病院のトランスレーショナルリサーチセンターに新設された細胞加工施設（CPC）の運営管理業務を受託し、CPC運営受託に係る売上を計上いたしました。このように、これまで継続的に行ってきた細胞医療支援事業拡大のための取り組みの成果は着実に表れてきているものの、前連結会計年度後半に減少した当社グループ契約医療機関における細胞加工数は、平成24年3月においては増加の傾向が見えるものの、まだ期待したような回復には至っておりません。また、患者及びその家族に向けた病院広報活動企画・支援等のサービスについては、広報企画の受注の減少等により売上が減少しており、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,114,640千円（前年同期比327,720千円減、22.7%減）となりました。

研究開発活動については、前連結会計年度から引き続き、治療効果向上につながる新規技術の早期実用化を目指し、「免疫細胞治療に係るEvidenceの強化」、「より治療効果の高い新たな免疫細胞治療に係る技術の開発」、「細胞加工プロセスの大幅な効率化と細胞輸送技術の強化」を目標として、より出口に近いテーマにプライオリティを置いて推進しております。当第2四半期連結累計期間においては、平成23年10月に、アジア・パシフィック地域を中心とした海外市場への事業展開に向けて、規制当局の承認に必要な「前臨床試験データ」を取得するため、デューク大学メディカルセンター（米国ノースカロライナ州）と、樹状細胞ワクチン技術開発に係る委託研究契約を締結いたしました。また、平成23年11月には、東京大学医学部附属病院と共同で、再発・進行がんの患者を対象として、HSP105<sup>[i]</sup>抗原ペプチド<sup>[ii]</sup>を用いた樹状細胞ワクチン療法<sup>[iii]</sup>の臨床試験を開始いたしました。その他の研究開発活動を合わせ、当第2四半期連結累計期間の研究開発費は、前第2四半期連結累計期間に比べて22.7%増加しております。なお、これまでの研究開発活動の成果として、平成24年3月に、樹状細胞の働きをより強化する技術に関する特許が欧州11カ国において成立するとともに、細胞培養評価システムに関する特許が日本で成立いたしました。営業活動としては、医師・医療機関をターゲットとした学術営業活動及び、一般向けの広報活動を継続的に推進しておりますが、広報企画を見直したこと等により、当第2四半期連結累計期間の販売費については、前第2四半期連結累計期間に比べて14.9%減少しております。また、平成23年10月に、基幹システムの入替えを行ったことから、同システムが安定的に稼働、運用されるまでの間のシステムサポート費用やネットワーク環境の整備費用が増加したこと等により、一般管理費については、前第2四半期連結累計期間に比べて6.0%増加しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は933,967千円（前年同期比32,976千円増、3.7%増）となり、営業損失は319,798千円（前年同期は営業利益6,479千円）となりました。

その他、外貨建て投資有価証券の円換算等による為替差益24,907千円、投資事業組合運用損24,746千円等の営業外損益により、当第2四半期連結累計期間の経常損失は311,620千円（前年同期は経常損失15,805千円）となりました。また、本社建物及び医療機関賃貸用建物の減損処理をしたことによる減損損失10,164千円、投資有価証券評価損10,000千円等を特別損失に計上したこと、法人税、住民税及び事業税7,181千円、法人税制の改正等による繰延税金負債の減少により法人税等調整額△3,075千円を計上したことから、四半期純損失は335,926千円（前年同期は四半期純損失101,485千円）となりました。

#### [i]HSP105

HSP105（Heat Shock Protein 105）は、熱等の何らかの要因によって体内で生産されるストレスタンパク質に分類される。膵がん、大腸がん、乳がん、食道がん等の多くのがんが高発現するタンパク質で、正常細胞では精巣での発現が確認されている。腫瘍組織にHSP105が高発現していることが確認された患者に対しては、HSP105特異的な免疫細胞を誘導することで抗腫瘍効果が期待できる。

[ ii ]HSP105抗原ペプチド

HSP105タンパク質を構成するアミノ酸配列のうち、特にがん抗原特異的CTLが強く反応する部分を指す。このペプチドを用いることにより、CTLを効率的に刺激・増殖させることができる。

[ iii ]樹状細胞ワクチン療法

樹状細胞は、がん細胞に由来するたんぱく質を貪食し、それをがん抗原としてTリンパ球に提示することにより、がん細胞を特異的に攻撃する細胞傷害性T細胞（CTL）を誘導する。樹状細胞ワクチン療法は、この働きを利用した免疫細胞治療の一種で、患者自身の末梢血中単球から樹状細胞を分化、誘導し、その樹状細胞にがん抗原を導入、提示させた上でワクチンとして投与することで、患者体内でCTLを誘導し、がん細胞を特異的に攻撃させようとする治療。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて366,682千円減少し、7,657,696千円となりました。流動資産は4,459,440千円と前連結会計年度末に比べ1,283,967千円減少しており、主な要因は現金及び預金の減少227,617千円、売掛金の減少155,395千円、有価証券の減少899,984千円です。固定資産は3,198,256千円と前連結会計年度末に比べ917,284千円増加しており、主な要因は投資有価証券の増加162,477千円、長期貸付金の増加707,547千円、長期前払費用の増加73,359千円によるものです。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて132,523千円減少し、2,405,852千円となりました。そのうち流動負債は1,183,974千円と前連結会計年度末に比べて172,397千円減少しております。主な要因は買掛金の減少51,139千円及び未払金の減少131,553千円です。固定負債は、前連結会計年度末に比べて39,873千円増加し、1,221,877千円となりました。主な要因はリース債務の減少7,709千円及び繰延税金負債の増加46,763千円です。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、四半期純損失335,926千円、その他有価証券評価差額金の増加101,766千円により前連結会計年度末に比べて234,159千円減少し、5,251,844千円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の68.4%から68.6%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて1,127,602千円減少し、3,730,996千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動に使用した資金は81,148千円（前年同期は57,808千円の獲得）となりました。

主な増加は、減価償却費102,930千円及び売上債権の減少155,395千円であり、主な減少は、税金等調整前四半期純損失331,820千円及び仕入債務の減少51,139千円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は1,038,882千円（前年同期は847,972千円の使用）となりました。

主な支出は、有形固定資産の取得による支出108,909千円、無形固定資産の取得による支出70,858千円、長期前払費用の取得による支出130,000千円、長期貸付けによる支出700,000千円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に使用した資金は7,571千円（前年同期は2,874,579千円の獲得）となりました。

内訳は、リース債務の返済による支出7,571千円であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループでは、当社グループ契約医療機関の新規治療開始者数及び治療数の拡大による強固な事業基盤確立を目的として、大学病院をはじめとした地域中核医療機関等との新しい取り組みを推進し、新規契約医療機関の獲得や当社グループ契約医療機関と地域中核医療機関等との医療連携体制の構築の一層の拡大に注力しております。

当第2四半期連結累計期間においては売上高の進捗は予想を下回ったものの、利益面は概ね予想通りに推移しており、今後は九州、北陸地方を重点に売上の拡充に努めてまいります。以上により、平成23年11月8日に公表した通期の連結業績予想は変更していません。

2. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,858,684	1,631,066
売掛金	551,326	395,931
有価証券	2,999,914	2,099,929
原材料及び貯蔵品	132,481	120,209
その他	201,000	212,302
流動資産合計	5,743,407	4,459,440
固定資産		
有形固定資産	629,658	561,815
無形固定資産	209,232	242,166
投資その他の資産		
投資有価証券	608,804	771,281
長期貸付金	—	707,547
長期前払費用	699,920	773,280
その他	133,355	142,165
投資その他の資産合計	1,442,080	2,394,274
固定資産合計	2,280,971	3,198,256
資産合計	8,024,379	7,657,696
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	137,100	85,960
短期借入金	800,000	800,000
未払法人税等	20,818	17,217
賞与引当金	52,072	53,527
資産除去債務	2,700	8,929
その他	343,681	218,339
流動負債合計	1,356,372	1,183,974
固定負債		
新株予約権付社債	1,000,000	1,000,000
資産除去債務	76,793	77,613
その他	105,209	144,263
固定負債合計	1,182,003	1,221,877
負債合計	2,538,375	2,405,852
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,631,011	3,631,011
資本剰余金	5,043,571	5,043,571
利益剰余金	△3,244,932	△3,580,858
株主資本合計	5,429,650	5,093,724
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	56,353	158,120
その他の包括利益累計額合計	56,353	158,120
純資産合計	5,486,003	5,251,844
負債純資産合計	8,024,379	7,657,696

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)
売上高	1,442,361	1,114,640
売上原価	534,890	500,471
売上総利益	907,470	614,169
販売費及び一般管理費	900,991	933,967
営業利益又は営業損失(△)	6,479	△319,798
営業外収益		
受取利息	2,742	8,967
為替差益	9,823	24,907
その他	3,940	3,627
営業外収益合計	16,506	37,502
営業外費用		
支払利息	3,334	3,363
株式交付費	19,632	—
投資事業組合運用損	13,862	24,746
その他	1,961	1,214
営業外費用合計	38,790	29,324
経常損失(△)	△15,805	△311,620
特別利益		
投資有価証券売却益	12	—
特別利益合計	12	—
特別損失		
固定資産除却損	1,212	35
減損損失	—	10,164
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	20,630	—
投資有価証券評価損	—	10,000
特別損失合計	21,842	20,199
税金等調整前四半期純損失(△)	△37,635	△331,820
法人税、住民税及び事業税	4,471	7,181
法人税等調整額	59,378	△3,075
法人税等合計	63,849	4,105
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△101,485	△335,926
四半期純損失(△)	△101,485	△335,926

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△101,485	△335,926
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	84,053	101,766
その他の包括利益合計	84,053	101,766
四半期包括利益	△17,431	△234,159
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△17,431	△234,159
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成23年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△37,635	△331,820
減価償却費	69,256	102,930
減損損失	—	10,164
賞与引当金の増減額(△は減少)	△30,193	1,455
受取利息及び受取配当金	△2,742	△8,967
支払利息	3,334	3,363
投資有価証券評価損益(△は益)	—	10,000
投資事業組合運用損益(△は益)	13,862	24,746
為替差損益(△は益)	△9,807	△25,618
有形固定資産除却損	1,212	35
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	20,630	—
株式交付費	19,632	—
売上債権の増減額(△は増加)	20,121	155,395
たな卸資産の増減額(△は増加)	△73,605	12,272
仕入債務の増減額(△は減少)	27,208	△51,139
未払金の増減額(△は減少)	31,497	△23,453
その他	15,376	43,884
小計	68,146	△76,751
利息及び配当金の受取額	2,370	8,975
利息の支払額	△3,767	△3,334
法人税等の支払額	△8,942	△10,038
営業活動によるキャッシュ・フロー	57,808	△81,148
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額(△は増加)	△300,000	—
有形固定資産の取得による支出	△15,487	△108,909
無形固定資産の取得による支出	△43,227	△70,858
長期前払費用の取得による支出	△420,316	△130,000
投資有価証券の取得による支出	△61,820	△20,000
投資有価証券の売却による収入	152	—
投資有価証券の償還による収入	5,226	—
短期貸付金の増減額(△は増加)	△12,500	800
長期貸付けによる支出	—	△700,000
その他	—	△9,915
投資活動によるキャッシュ・フロー	△847,972	△1,038,882
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(△は減少)	800,000	—
株式の発行による収入	2,078,067	—
リース債務の返済による支出	△3,488	△7,571
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,874,579	△7,571
現金及び現金同等物に係る換算差額	431	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,084,846	△1,127,602
現金及び現金同等物の期首残高	2,962,074	4,858,598
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,046,920	3,730,996

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。